

新塗料 目指すは五輪

国立競技場での活用を提案している。同社は県産アカマツの利用促進にも力を入れており、新開発の塗料と合わせて五輪関連施設への採用を促すことで、「復興五輪」を世界へアピールする考えだ。

矢巾・製造業 シオン・開発

矢巾町の自然塗料製造販売業シオン(石川公一郎代表取締役)は、木に塗るだけで防災効果が期待できる国産自然塗料を開発した。東京都新宿区に建設中で、2020年東京五輪・パラ五輪のメインスタジアムとなる新

木の形質維持し防災 「新国立」での活用提案

同社は植物油や天然顔料など、自然由来の成分でつくる塗料を専門に製造。新開発の「U-OILファイアガード」は、同社主力製品のU-OILにホウ酸系成分を配合して防災性能を付加。日本防災協会の製品性能試験で効果を認められた。

木材に塗るだけで火災時の初期燃焼を抑え被害を軽減できる。木に大量の薬剤を染み込ませた不燃木材と異なり、本来の木の形質を維持できる点も特長だ。

また、アカマツの利用拡大に力を入れている久慈市夏井町のマルヒ製材や、大阪市のオフィス家具大



手イトーキなどと連携し、県産アカマツを使ったベンチなどを共同開発。被災地の産業振興の実例へ。

木の燃焼を防ぐ新塗料を開発し、「日本らしい木材文化の良さを全国へ発信したい」と願う石川公一郎代表取締役

シオンは、昨年5月に東京都の担当者から燃焼を防ぐ木材塗料製作の依頼を受け、新塗料の開発に着手。同競技場では木製の導入などが構想されており、同社は採用を目指している。

石川代表取締役は「日本らしい木材文化の良さを岩手から全国へ発信したい」と意気込む。

U-OILファイアガードは全66色で1リットル6千円から。問い合わせは同社(019・677・7060)